

2025年9月5日

各位

株式会社九州リースサービス
代表取締役社長 礒山 誠二

インドネシアでの戸建住宅開発プロジェクト参画のお知らせ ～事業パートナー連携による海外ビジネスへの展開～

株式会社九州リースサービス（代表取締役社長 礒山 誠二、以下、「当社」）は、インドネシアでの大規模戸建住宅開発プロジェクト「コタ・ポドモロ・テンジョ プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」）に対し、優先出資による本プロジェクトへの参画を決定し、9月4日に出資契約を現地にて完了させましたのでお知らせします。

本プロジェクトは、株式会社シノケングループ（代表取締役会長 篠原 英明、以下、「シノケングループ」）のインドネシア現地法人である PT. Shinoken Development Indonesia（以下、「SKDI」）と、インドネシア有数の大手デベロッパーであるアグン・ポドモロ社が開発を主導する、ジャカルタ都市圏近郊のティガラクサ駅周辺総面積 650 ヘクタールの大規模開発プロジェクトです。

インドネシアは、世界第4位の約2億8千万人の人口を有し、今後もさらなる人口増加が見込まれる高成長市場です。特に、人口が集中するジャカルタ首都圏では、生活コストの高騰により周辺地域への移住が進んでおり、慢性的な住宅不足が社会課題となっています。

本プロジェクトは、そうした課題に対するソリューションとして、現地の中間所得層向けに需要の高まる戸建住宅 8,000 戸超を供給するとともに、TOD※（公共交通指向型開発）という都市開発手法により、中核となる大規模戸建住宅開発のほか、新たな駅や、商業エリア、路面店などを整備し、利便性の高い複合的な街づくりを目指すものです。当社や SKDI など複数の企業が投資家として出資参画します。

【本プロジェクトの全体像】



当社では、中期経営計画「共創 2027～つながるチカラで未来を創造する～」における戦略のひとつとして、事業パートナーと連携し、海外市場を含めた新たなマーケットやビジネスに挑戦することを掲げ、推進しております。本プロジェクトへの出資参画を通じて、事業領域拡大と、海外ビジネスの展開を図るとともに、付加価値の高い総合金融サービス・ソリューションの提供に注力することで、社会課題解決に貢献し、ステークホルダーとの共創による持続可能な成長に努めてまいります。



【現地でのサインングセレモニーの様様】



※TOD = Transit-Oriented Development (公共交通指向型開発)とは、鉄道やバスなどの公共交通機関の駅を中心に、住宅、商業施設、オフィスなどを高密度で集約する都市開発手法で、自動車への依存を減らし、徒歩や自転車、公共交通機関の利用を促すことで、持続可能な都市のあり方を目指すものです。

本件に関するお問い合わせ
株式会社九州リースサービス ファイナンス営業部
TEL: 092-431-2622